

(別添)

令和5年度「ちばっ子の学び変革」推進事業（「学力・学習状況」検証事業）研究
状況報告書

市川市立下貝塚中学校

1 学校紹介

市川市立下貝塚中学校は、昭和54年に開校し、今年44年目を迎えた。市の北東部に位置する丘陵地帯と平地からなり、周辺には梨畑が点在している。566名の生徒たちは「笑顔かがやく学校」を合言葉に、日々明るい生活を送っている。

2 研究主題

思いや考えを明確に伝える国語科の学習指導

3 研究の概要

(1) 生徒の実態と課題

令和5年度全国学力・学習状況調査では「考えの形成」に大きな課題が見られた。「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる」問題で、全国平均正答率を大きく下回った。この問題は「読むこと」の指導事項に関する問題であるが、本校全体の実態から、読んで考えたことを文章に書いてまとめることが苦手な生徒が多くいることが現状である。また、自分の知識や経験と結び付ける書き方がわからない生徒もいる。

(2) 学力向上のための取組

ア 「考えの形成」を促す指導の実践

読んで考えたことを知識や経験と結び付けるには、「共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりすること」を行う必要がある。

授業の中では、初めに自分の考えをもたせ、その後に3人から4人のグループで共有する。自分の考えと友達の考えを比較し、共通点や相違点を見出しながら考えの広がりや深まりが生まれることを目指した。また、考えを書き始めるときや、考えをまとめるときの語例を提示し、選びながら書けるようにした。

イ 『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』に沿った検証授業の実践

- ・単元名：「SDGs 新たな発見を報告しよう」－Shimokaizuka Discovery Groups－
- ・展開学年：2学年
- ・学習材：伝え合う言葉 中学国語2「持続可能な未来を創るために」／「レポートの書き方」
- ・単元計画：(全8時間扱い)

学習過程を計画するにあたり、『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』の①見いだす、②自分で取り組む、③広げ深める、④まとめあげる の4つの過程を意識して作成した。

①見いだす の過程では、教師が作成した見本を示し、どのような活動を行うのか理解させる。図書資料やインターネットの情報を活用しながら自分で課題を設定する学習であること、同じ目標からテーマを決めた友達と交流することで、自分の考えを広げたり深めたりする学習であることを確認する。そして、どのようにしたら見本のようなレポートが作れるかを考えさせる。

②自分で取り組む の過程では、学校図書館で図書資料を使いながら何を調べるかを決めさせる。生徒は各自でインターネットや図書資料を使って調べ、ノートや情報カードにまとめていく。学校司書の協力を得て、どのような配架になっているかの確認や、目次や索引の見方、出典の書き方の指導をする。

③広げ深める の過程では、生徒が調べたことを報告する形式のレポートを書く。調べて分かったことに加え、自分の考えや、友達と交流することで広がった考えをまとめさせる。

④まとめあげる の過程では、完成したレポートを読んで感想を伝え合い、自分のレポートのよい点や改善点を見いださせる。最後に身に付いた力について振り返らせる。特に指導事項として設定した「題材の設定（書くこと）」、「考えの形成（読むこと）」や「情報の整理の仕方」について、身に付けた力を生徒が自覚し、今後に生かすことができるようにさせる。

ウ 実態を踏まえた「学習のてびき」の作成（知識・技能／思考・判断・表現の育成）

生徒の実態を受けて、テーマの決め方や、情報の集め方の指導に際し、てびきを作成する。テーマについては「なぜ…か」、「どのように…か」などの言葉を用いるようにさせること、調べることでできるテーマであること、複数の資料に当たる必要のあるテーマであることなどを再度確認させるようにした。

情報の集め方については、可能なものは複数の情報に当たって比較すること、情報カード（図1）を使って整理することを指導した。情報カードは出典の示し方の際にも役立つ。複数の資料の比較については、図書資料同士の情報を比較させるとともに、もっと知りたいことについてインターネットの情報も加えて、比較をさせたい。

図1 情報カード（A6用紙）

エ 学習の記録（主体的に学習に取り組む態度）の工夫

主体的に学習に取り組む態度は、粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面をもつことを受けて、これらを意識的に取り組ませるための学習の記録の在り方を検討した。見通しをもつ段階、学びを調整する段階、学習を振り返る段階で、個人の学習状況を記入させる。本単元全体のためや、この段階で何を書いてほしいかを示すことで、生徒自身も的確に学習を振り返ることができ、教師も「粘り強い取組や学習を調整する態度」を見ることができると考える。（図2）

図2 学習の記録 (A4用紙)

(3) 加配教員の活用

- ・授業中における生徒への学習支援
- ・個々のつまづきに対する指導・助言
- ・2か所(教室・学校図書館)展開における指導・支援

4 成果

ア 「考えの形成」を促す指導により、生徒それぞれが考えをもつことができた。

- ・事前に考えをまとめさせてから、交流をさせることで生徒は考えを広げることができた。

考察1ではどのようにプラスチック「ゴミ」を減らすか、と考えていたけれど、人の意見を聞いてみると、最終的にプラスチック自体を減らす取組もよいのではないかと考えた。(生徒Aまとめ)

考察1では、日本の水道水が安全な理由(日本のことだけ)しか考えられなかったけど、考察2では、世界全体のこと、世界の問題点を視野に入れて考えられた。(生徒Bまとめ)

SDGs 新たな発見を報告しよう-Shimokaizuka Discovery Groups-		
し(らべたい) も(くひょうへ) か(かわりかたを) い(いあらず) レポート		
学びの3段階シート		
2年 組 番 氏名		
全体のため		
①SDGsへの関わり方を報告するレポートのテーマを決め、伝えたいことを明確にしよう。		
②テーマや書く内容を決めるときに情報と情報の関係の様々な表し方を使おう。		
③資料を読んで考えたことを、友達との交流を通して広げたり深めたりしよう。		
STEP 1 見通しをもつ	記入 9月 19日(火)	私は、最近「SDGs」という言葉をよく耳にするようになって、大切だとは思って居ても考えたりはありはって今日改めて世界と向き合えるチャンスなので、しかり興味を調べてみたいと思いましたが、この事を自分達に関係は、今の暮らしを当たり前に思えては居るくらい頑張、700リ、いでは、最初、自分のテーマは、大、内容を、見つけたのに、そのページを全部読んで、時間がかかったけれど、途中で、今までの、できた月次を見ること、大きく書いてある文字を見たりもした。それらは、私だけの、最初からやっていたら、たて後悔はした。カード、もとの簡潔にまとめることを、ぜひ、17日、
	記入 9月 25日(月)	<途中の感想> ・本やインターネットの情報をどのように整理したか ・できていること、まだのこと ・ここから何をどのように取り組むか など
	記入 10月 3日(火)	<終わりの感想> ・レポートを作成することについてさらにわかったこと ・この学習で身に付いた力 ・もっと頑張りたいこと ・今後に生かせようなど

- ・黒板にどのように考えたらよいか、考え方の観点は何かを示した(図3)ことも有効であった。

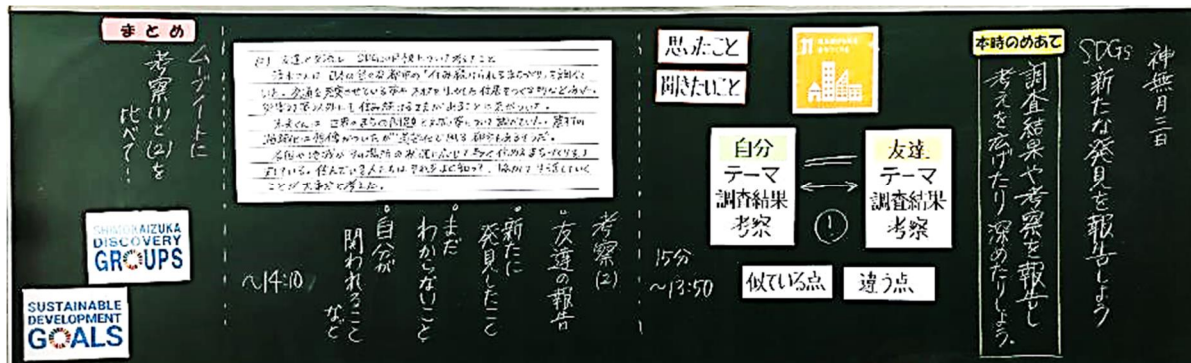


図3 本時の板書(教室)7/8時間目

図4 学習計画の提示

イ 『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」に沿った検証授業の実践により、生徒の主体的な学びを引き出すことができた。

- ・学習計画の掲示（図4）も行い、生徒が見通しをもって学習に取り組めた。
- ・興味のあるテーマから各自レポートを作成し、関心をもって学ぶことができた。

ウ 実態を踏まえた「学習のてびき」の作成により、生徒全員が活動に取り組むことができた。

- ・テーマの決め方、テーマの例を入れることで、全員がテーマを決めて作業を進めることができた。
- ・情報の集め方、情報カードの書き方を指導することで（図5）、生徒は取捨選択をしながら必要な情報を得ることができた。

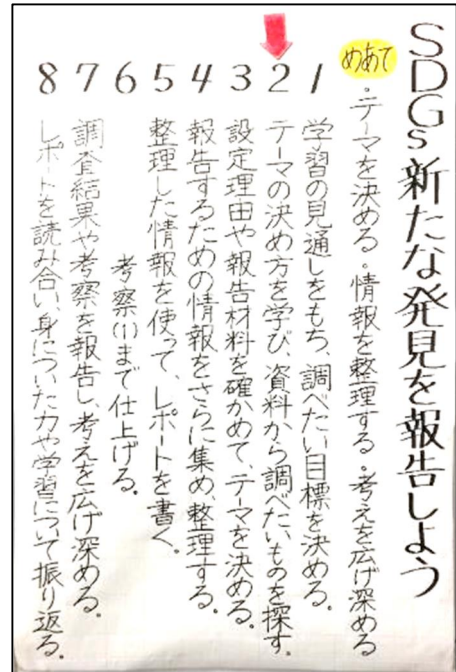


図5 本時の板書（学校図書館）5／8時間目

エ 学習の記録（図2）を工夫したことにより、生徒の学習状況が把握でき、必要な支援、指導をすることができた。

- ・教師が励ましの言葉や、質問の答えを書くことにより、生徒それぞれの学習状況を把握することができた。つまりいている生徒には、個別に声をかけて支援することもできた。
- ・生徒の主体的な学びを促すことができた。

5 今後の課題

- 生徒が考えを広げることにはできていたが、深めるところまでは至らなかった。考えを深める指導について、検討を重ねたい。
- 自分の考えをもってから、少人数で話し合う活動を、今後も様々な教科領域で展開させたい。
- 国語科におけるICTの指導の在り方、効果的な取り入れ方を検証していく。
- 生徒の実態と教師のねらいを合わせた、よりよいてびきの在り方についてさらに工夫をしていく。